

■ 経済学部 経済学科

教育研究上の目的
学則第1条（目的） 本大学は、教育基本法及び学校教育法並びに本学の設立趣意書に基づき、高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材を養成することを目的とする。
学則第2条の2（学部及び学科） 経済学に関する専門的学芸を教授することに加え、幅広く深い教養、総合的な判断力、豊かな人間性を養うことを目標とする。広い視野から物事を見る能力、判断力を養成し、豊かな人間性、高い倫理観の醸成を図る。そして、既存概念やシステムにとらわれず、課題に対し果敢に取り組み、新しい価値の創造に努める意欲の涵養、養成を目指す。更に、近年の社会動向を配慮し、国際化・情報化時代の中で対応できる人材、地域に貢献できる人材を養成する。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
経済学部では、学則第2条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って履修規程に定められた科目区分毎の卒業必要単位数およびコース別の履修要件等をすべて満たした上で、厳格な成績評価を経ることにより、共通教育科目 36 単位以上、専門教育科目 74 単位以上を含め、総計 124 単位以上修得することを学位授与の要件とし、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「学士（経済学）」の学位を授与します。
（知識・技能） 1. 深い教養を身につけている。 2. 学部・学科の専門知識・技能を身につけている。 3. 論述・プレゼンテーション能力を身につけている。
（思考力・判断力・表現力） 1. 筋道を立てて物事を考え課題を発見することができる。 2. 総合的に判断し問題を解決する能力を身につけている。
（主体性・多様性・協働性） 1. 国際化・情報化時代に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。 2. 地域・社会に貢献する意欲を持っている。 3. 新しい価値の創造に努める意欲を持っている。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
経済学部では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、全学部共通で示す教育課程の編成・実施方針に加え、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。
（教育内容） 1. 共通教育科目は大学教育への導入・適応を促し、大学における学習・研究に必要な基礎的能力、知性や豊かな人間性を養成するため「外国語」「数理・情報」「自然」「社会」「人文」「総合」「体育」の各分野により構成する。 2. 専門教育科目に、経済学の基礎理論や多様な分野の入門科目を学び、専門科目の学習・研究への導入を促すため「基礎科目」を配置する。 3. 専門教育科目に、経済理論や統計学、金融、財政、公共経済、社会保障、地域経済、国際経済、経済史などの専門的な学習・研究に必要な基礎的能力を養成するため「学部共通科目」を配置する。 4. 専門教育科目に、複雑化した現代の経済社会を確かな専門的知識によって理解、多様・多元的な見方や接近法を会得するため、「経済分析」「政策・地域」「世界経済」の3コースに対応したより発展的な専門教育科目を配置する。 5. 専門教育科目に、多様・多元的な見方や接近法を会得するため、他学部開講科目を含む「隣接・関連分野」を配置する。 6. 専門教育科目に、専門分野の学習を深化させるとともに、課題発見の能力、コミュニケーション能力、問題解決能力、論述やプレゼンテーション能力を向上させるために、「演習系科目」を配置する。 7. 専門教育科目に、課題に積極的に取り組み、自律的に学習する力を育成し、社会に貢献できる人材を養成するために「キャリアスキル」を配置する。
（教育方法） 1. 少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。 2. 学生の主体的学修を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。 3. 交換留学や国内外での課外活動・フィールドワークを奨励する。
（学修成果の評価） 経済学部では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行う。 1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、GPA 分布（年度毎、通算）、留年率、卒業論文の成果評価割合等により行う。 2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行う。

愛知大学 3つのポリシー（2024 年度向け）

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

経済学部では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

1. 求める学生像

- (1) 主体的に学習する意欲を持っている人。
- (2) 経済・社会に関心を持っている人。解決を必要とする問題を発見し自ら解決できる経済学の専門知識と教養を修得する意欲と実行力を持っている人。
- (3) 地域社会、国内外の社会で活躍、貢献したいと思っている人。
- (4) 他者への思いやりや公正さを重んじ、異なる考え方を尊重する、自立した社会人になりたいと思っている人。
- (5) 柔軟な思考力、創造力を備えるとともに、コミュニケーション能力や表現能力を高めたいと思っている人。

2. 入学前までに修得すべき能力

（知識・技能）

- (1) 基礎学力（高等学校の各教科、とりわけ、国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科の基礎学力）を有すること。

（思考力・判断力・表現力）

- (1) 基礎的な論理的思考力、的確な主張、文章の表現力を有すること。

（主体性・多様性・協働性）

- (1) 基礎的な会話・コミュニケーション能力を有すること。

3. 選抜方法

(1) 一般選抜

基礎学力をバランス良く備えた入学者を選抜するために、3 教科以上を課し、その結果を総合判定して合格者を決定する。

(2) 総合型選抜

出願資格に応じた入試区分を設け、出願書類、小論文、面接等により総合判定して合格者を決定する。

(3) 学校推薦型選抜

調査票（全体の学習成績の状況）、資格点、面接、学科試験により総合判定して合格者を決定する。